

interview

インタビュー



宮城県選手団団長
鈴木隆一さん
(県社会福祉協議会会長)

スポーツ、文化活動 元気の素に

宮城県選手団は大会前日の10月16日に出発。仙台駅から東北新幹線に乗り、東京駅で臨時列車に

乗り継いで新山口駅に向かいました。片道約7時間という相当な長時間移動、体調を崩してしまう

方もいるのではと思いましたが、そんな心配は全く必要ないほど選手の方々はすこぶる元気でした。移動中の車内では絶えず間なく笑い声が聞こえ、選手同士の交流を楽しんでいるようでした。今回の参加選手の最高年齢は88歳でしたが、本当にお若い。

新山口駅に到着すると「おいでませ山口!」と書かれた手旗を振った地元の方々を迎えていた

「おいでませ山口!」と書かれた手旗を振った地元の方々を迎えていた

はつらとプレー

私自身、いくつかの試合を観戦しました。選手皆さんの年齢を感じさせないはつらとした動きに、普段から相当トレーニングをしているのだと

感じました。チームプレーの競技はチームワークが素晴らしかったです。大会中は、他県の方に「東日本大震災の復興状況はどうですか?」といったことを何度か尋ねられました。「ボランティアで被災地に行ったことがあります」という若者もいました。4年以上がたち、震災の風化が懸念されていますが、今でも被災地の様子を気に掛けてくださる方は大勢いるのだと感じました。

初日から好天に恵まれ、スポーツと文化の祭典は予定通りスムーズに進められました。気持ちを一つに参加した県選手団は、山口の皆さんの心温まる歓迎に感謝して帰ってきました。

来年の舞台は長崎県。今回の山口県よりさらに遠い地での開催ですが、ねんりんピックはシニアにとって一つの大きな目標。楽しみながら努力し、一日一日を過ごしてほしいと思います。スポーツでも文化でも、何かに打ち込んでいくシニアは元

今回の開催地は幕末維新の地として知られる山口県。全国から約1万人の選手、役員が集まり、宮城県からは総勢123人が“熱く”参加しました。総合開会式や競技の様子を紹介します。



総合開会式で宮城県選手団は61番目に入場



おいでませ!キッズと交流

10月17日の総合開会式は維新百年記念公園陸上競技場(山口市)で、常陸宮同妃両殿下のご臨席の下開催されました。会場には、各都道府県の選手を専門に応援する「おいでませキッズ」が来てくれました。宮城県

17種目で熱戦

18日からのスポーツ・文化交流大会に、宮城県選手は17種目の競技に出場。山口県各地で手に汗握る熱戦を繰り広げました。中には額に大粒の汗を

浮かべ、競技に臨む選手もいました。勝つても負けても、相手選手としっかりと握手を交わす姿が見られ、「交流大会」の意義を感じさせられた一コマです。ベンチから送られる大きな声援が、選手を励ましてくれました。

宮城県は、なぎなた、サッカーの団体種目、ダンス、健康マージャン、将棋、水泳の個人種目などで上位入賞を果たしました。また、同時開催された美術展では「書の部」で山口県知事賞を受賞。「日本画の部」「洋画の部」では最高齢者賞を受賞し、多くの方々に感動を与えました。

来年は長崎県。4日間にわたる大会は無事に終了。初参加の選手は「開会式では正直涙があふれそうなくらい感動しました」「機会があれば、ぜひまた参加したいです」と充実の表情で話してくれました。来年は異国情緒が漂い、豊かな自然に恵まれた長崎県での開催。全国の仲間と味わう大きな感動世代を超えた交流にまた期待しましょう。次の大会に向け、すでに準備は始まっています。次は長崎大会に“熱く”参加!

ねんりんピック おいでませ!山口2015

第28回全国健康福祉祭やまぐち大会
レポート

幕末維新の地に“熱く”参加



試合後、相手選手とがっちり握手(ソフトバレーボール)



狙いを定めて(ゲートボール)



力強いスイング(ソフトボール)